

令和4年度 第3回大阪府立泉鳥取高等学校 学校運営協議会 議事録

☆学校運営協議会次第

日 時：令和5年1月20日（金）15：00～17：00

場 所：大阪府立泉鳥取高等学校 A棟1階 会議室

1. 校長挨拶（5分）
2. 本校各部(委員会)よりの報告（各部3分程度 約20分）
 - ・進路指導部
 - ・生活指導部
 - ・自治会部
 - ・保健部
 - ・教育相談委員会
 - ・教務部
 - ・近況報告（教頭）

<質疑応答>

3. 協議事項（司会：学校運営協議会 委員長）
 - ①事務局からの報告を受けて、質疑応答
 - ②各委員からのご提言
4. 校長 挨拶
5. 諸連絡

次回 学校運営協議会

令和5年 第1回 6月を予定

☆出席者

- ・学校運営協議会委員——6名
- ・学校運営協議会事務局員(教職員)——10名

☆議事内容

●各部（委員会）よりの報告

・進路指導部

昨年度より進学者は減少したが、就職者は増えている。少数だが、進路未定者がいるので、担任、学年、進路で連携して最後までサポートしていきたい。

・生活指導部

遅刻件数が昨年より増加している。欠席者も多く、無気力な生徒が増えたような気がする。懲戒件数は例年になく少なく、嫌なことは避けるなど、モチベーションもエネルギーも低い生徒をどう導くのか生徒指導だけでなく学校全体で課題意識をもって取り組みたい。

・保健部

予定通り、検診、避難訓練等が実施できた。南海トラフ地震や各種災害時に行動できる知識の育成等を今後できるようにしていきたい。

・教育相談委員会、支援教育委員会

SC・SSWを活用できた。学校だけでなく福祉とも連携できるようになり、教育相談の幅が広がったが、今年度初の取り組みもあり、校内周知、研修等を通して教員のレベルアップも図りたい。近隣の支援学校等とも連携しながら個別の指導計画等の作成・調整を行っており、次年度も継続して対応していきたい。

・生徒自治会

各種行事がコロナ前の形で実施できた。生徒の参加率も非常に高く、大いに盛り上がった。次年度、生徒数も減るので、各種行事を今年度と同様に実施するためにも、一般開放、地域との連携など、さまざまな可能性を模索していきたい。

・教務部

観点別学習状況評価の実施することで、評価の難しさや生徒の見取りの多様性を実感した。次年度以降も教員のスキルアップ、評価方法のブラッシュアップをしていきたい。

・3年生

コロナの影響で、入学式がなく、6月から分散登校。いろんなことがこの3年間にあったが学年であるが、先日高校生活最後の授業が終わり、卒業に向けた学年末試験に現在取り組んでいる。

・2年生

本日は漢字検定を受験、各種行事も終わり、現在進級に向けて生徒たちの意識が高まっている。学年としてもサポートできるようにしていきたい。

・1年生

冬休み明けてから、インフルエンザが大流行。1クラスが学級閉鎖になり、様子を見守っていたが、減少には至らず、学年閉鎖となった。現在も罹患者及び疑いのある生徒が一定数いるので、心配している。1年生は後がないので、進級に向けて学年全体で生徒たちの底上げができるようサポートしていきたい。

●協議事項

令和4年度学校経営計画の評価について

今年度が3学年揃う最後の評価となり、生徒の変容や学校の雰囲気も見守りながら閉校までやっていきたい。

令和4年度学校経営計画評価について、特筆すべき点のみ説明いたします。

①学力の向上については、教員の評価では少し評価が下がっているのですが、次年度は向上に向けて頑張っていきたい、しかし、保護者の評価では上がっている部分もあり、ICTの活用充実やコロナやインフルで出席停止になってもオンラインで学びの場が確保されたことが要因だと考えられる。

②生徒に寄り添う生活指導では、泉鳥取高校として重要課題であったので生徒、保護者、教職員ともに評価が上がっている。校長として明確な意向を示し、それらを教員が意識しながら生徒の話をしっかり聞きこむようになった。その結果がこの評価向上につながったと思うので、次年度も継続して続けていきたい。

③将来の生き方デザイン、系統的なキャリア教育では、生徒、保護者の評価は向上しており卒業後を見据えた進路指導ができていると思う一方、教員の評価が下がっている。これは、新型コロナウイルスの感染症の影響で進路行事が完全実施できなかったことが原因と考えられる。次年度はコロナの扱いも変わるので、そういったこともふまえて進路行事の実施と充実を図っていきたい。

また、全体的に遅刻・欠席の数は減ってきており、生徒の雰囲気が変わってきているので、そういった変化に機敏に対応できるようにし、社会人としてのマナーや社会常識といった教育の充実ができるようにしていきたい。

④教職員の資質向上について、ミドルリーダーの育成や学び合いの場が少なくなってしまう、今年度課題が残った。新型コロナの第7波の影響もあり、授業の相互見学や職員研修会といったことがなかなか実施できなかった。とはいえ管理職として教員への声掛けや研修会、勉強会といった機会をうまく企画することができなかったことは課題であるので、次年度は教員のスキルアップを図っていきたい。

⑤働き改革として、部活動について大阪モデルが実施や一斉退庁日の設定、留守番電話等の変更など、教員の在校時間の削減に努めている。また、教職員の業務削減の一環として会議時間の縮小、回数削減、資料のペーパーレス化を具体的に進めていきたい。(学校長)

●質疑・応答

・生徒、保護者の信頼度が上がっている。管理職の先生方の意識が高いことはもとより、先生と生徒が話をする中で生徒の状況や家庭環境などを細かく聞き取っているかだと推察されるが何か意識していることはあるのか(教育関係者)

○先生からの報告を受ける際は、「なぜ」を3回聞き、その生徒の「変わり目」という部分を見落とさないことを意識的にしている。また、日頃から気になる生徒の情報は、担任等からの報告だけでなく、保健室との情報交換、各学年主任等からも情報を集めている。この体制が先生方にも定着しているのか、さまざまな情報を管理職も集約しやすくなっている(教頭)。

・1年生で遅刻・欠席が多い傾向にあるが何か理由があるのか(教育関係者)

○遅刻してでも学校へ登校できており、そこは生徒の頑張りとしてみている。本校に進学してきた生徒の多くは中学校の時に不登校、支援学級を経験している。メンタル面で不安定であったり、「高校では…」と心機一転し頑張ろうとしている生徒が学年の途中で息切れしてしまっていると思う。学校側がわからないぐらい多くの思いをもって頑張っており、一概に遅刻や欠席だけで判断できるものではない。また、最近の生徒はコミュニケーション力が弱くなっているのか人間関係でのトラブルが多く、ちょっとした会話のズレから精神的にしんどくなる生徒が増えてきているので、次年度では、ピアメディケーションといったコミュニケーション力を高めるような取り組みも実施していきたいと考えている（教育相談委員長）

・ICTの活用で授業の質が上がったように思われるが、今後、双方向でも行えるようにしていきたいとあったが、現状はどうか（学識経験者）

○現状は、一方通行的な授業の動画をオンラインで配信したりといった活用が主流となっているが、教室、学びの場をイメージできるような活用をしていきたい。ICTの活用してオンライン授業を実施しても、雰囲気や一体感は感じられないので、そういったものを感じることはできないにしろ、授業に参加しているという実感が持てるようなICTの活用を検討し実践できればと考えている。コミュニケーション、対面するといった向かい合うということが重要で本校の課題でもあると考えているので、次年度そういったことにも注力していきたい（校長）

・残り2年で閉校となる。終わりが見えていると生徒も教員もいかにモチベーションを維持し、高めていくかが重要である。そういったことに対応する力や組織作りといったことをどのようにするのが大切であるので、次年度の学校経営計画にはそういった点も含めて作成してほしい。

学校長挨拶

さまざまなご意見を聞かせていただき、今やっていることは引き続き最善をつくしていくとともに、生徒の自己肯定感を伸ばしていくことが間違いないことだと思える1年であった。次年度、一学年減り、生徒数も減った状態でどのような学校運営ができるか不安もあるが、頂いた意見を参考に外部機関との連携など、地域と一緒に最後まで泉鳥取高校を盛り上げていけるような取り組みを学校経営計画に反映させていただきます。